

令和5年8月30日

## 練馬区環境基本計画2023（素案）に寄せられた主な意見と対応方針

## 1 区民意見反映制度の実施結果

## (1) 意見募集期間

令和5年6月23日（金）から令和5年7月24日（月）まで

## (2) 周知方法

ア 区ホームページ（6月23日掲載）、ねりま区報（7月1日号）

イ 区民情報ひろば、区民事務所（練馬除く）、図書館、環境課での閲覧

## (3) 意見件数

150件（20名・3団体）

## (4) 主な意見と区の考え方

（令和5年8月29日時点）

主な意見	区の考え方
到達点が2050年のゼロカーボンシティであることが読み取りにくい。2050年を見据えた施策を検討していることを可視化すべき。	・2050年脱炭素社会実現という長期目標を見据えて、2030年の削減目標を定めることを明確に位置付ける。
CO <sub>2</sub> 削減目標を46%より高く設定するべきである。 （ほか同趣旨の意見2件）	・本計画は、前計画の施策体系を継承し新たに脱炭素の取組を位置付けるもの。削減目標の枠組みも前計画を継承し、国の中期削減目標と整合するものとした。
既存住宅の省エネ化、再エネ導入は効果的だと思う。補助金の拡充と、住宅の環境性能向上のメリットを分かりやすく説明し、取組を促すことが必要 （ほか同趣旨の意見6件）	・区は、既存住宅の省エネ化や再エネ導入に重点的に取り組む。補助制度の充実、区民や事業者が利用できる制度を分かりやすく伝える取組を進める。
CO <sub>2</sub> 削減に取り組むと、区民生活でどのような効果が感じられるのかが記載されていない。 （ほか同趣旨の意見5件）	・取組効果の「見える化」が課題であり、日々の取組がCO <sub>2</sub> 削減にもたらす効果、コストメリット等を、様々なメディア・コンテンツで分かりやすく発信する。
プラスチックの一括回収に向け、回収場所の確保や仕組みづくりなど、23区で連携して進めるべきである。 （ほか同趣旨の意見1件）	・大量のプラスチックを持ち込む処理施設などリサイクルルートの確保が課題であり、国に基盤整備等の役割を果たすよう求めていく。製品プラスチックを含めた全てのプラスチックの資源化については、国や事業者の動向を注視しつつ、検討することが必要である。

## 2 その他主な意見（抜粋）と区の考え方（案）

別紙のとおり